山形県建築士会女性委員会広報誌

あれこれ

2023年2月発行
令和４年度　第３号
担当：新庄支部

第６４回 建築士会全国大会「あきた大会」の報告

鶴岡田川支部　斎藤　美恵

令和4年10月14,15日の2日間に渡り、第64回建築士会全国大会「あきた大会」が秋田市あきた芸術劇場ミルハスを主会場に開催され、本県の女性委員は14名が参加しました。

↑エントランスにて曲げわっぱ装飾をバックに

主会場のあきた芸術劇場ミルハスは秋田杉がふんだんに使用され、樺細工や川連漆器、大館曲げわっぱなどの伝統工芸品が展示されており、秋田の魅力を感じとることができる建物でした。

大会1日目、午前のセッションは「青年委員会」「女性委員会」「景観・街中まちづくり」「福祉まちづくり」「歴史まちづくり」「木のまちづくり」「防災まちづくり」「環境部会」「情報部会」「木の建築・木のまちづくり」の10のテーマのもとに報告と討論が交されました。

昼食は秋田のおいしさが沢山詰まったお弁当「け」を青空の下でいただきました。

午後から国際教養大学理事長・学長のモンテ・カセム氏と環境建築家の仙田満氏の記念対談「秋田杉、そして建築の挑戦～秋田発、世界標準の大学を支える美しすぎる図書館～」をお聞きしました。秋田杉と伝統技術を生かした国際教養大学は24時間365日開館の図書館。カセム氏から大学理念や特色、地域との関わりなどについて、また仙田氏から図書館の紹介や設計コンセプト、秋田杉による建築実現のための手法などをお聞きしました。「一度は訪れたい美しすぎる図書館」として評価されており、時間の都合により今回は見学できませんでしたが機会をみてぜひ見学したいと思います。

↑カセム氏と仙田氏の記念対談

記念式典ではオープニングセレモニーのなまはげ太鼓が披露されました。ここで中座しましたが大会宣言、主催者挨拶、来賓祝辞、表彰式、大会アピール、次期開催地静岡へ大会旗が引き継がれました。

↑竿燈を肩や腰に乗せて凄い！

屋外では毎年8月に開催される竿燈まつりを本大会の為に披露されました。高さ12m、重さ50kgもあり倒れないかハラハラでした。

大会2日目15日の地域交流見学会（エクスカーション）は8つのコースがあり、秋田を満喫できる小旅行となりました。とても充実した楽しい2日間、秋田を沢山見て聞いて味わうことが出来ました。秋田県建築士会はじめ開催関係者の皆さま、大変お世話になりましてありがとうございました。

↑迫力満点のなまはげ太鼓

エクスカーションＢコースに参加して

鶴岡田川支部　鈴木小枝

10分前集合どころじゃない、出発時間になっても集合場所へ着いていないという醜態からスタート。バスは途中、道の駅上小阿仁での休憩を挟み森吉山へ。到着後ロープウェイで標高1200mにあるビジターセンターまで。途中色づいてきた紅葉を眼下にしたのですが雨雲と一緒に移動してきたのでゴンドラを降りたら視界はゼロ。晴れていれば鳥海山、寒風山、白神山地、岩木山まで見渡せるとのこと、こんな風に紅葉が見れたはずと写真を見せていただきましたが、実際に見れずに残念でした。

ビジターセンターは最近建て替えられたそうで、杉板に木材保護塗装がされていましたがこの塗料を熊が好むということが判明したそうです。

阿仁異人館・伝承館へ向かうバスの中で藤島林産の方が北秋田市で静岡の代理戦争となったブナのお話をしてくださいました。河合楽器にピアノの材料としてブナを出荷していたそうですが、白神山地が世界遺産に登録されてからブナが伐採禁止となり現在は外国産を使用しているとのこと。広葉樹は天然乾燥の上人工乾燥も必要なため乾燥技術が向上し、ピアノ以外にフローリングや家具等にも利用されているそうです。

阿仁合駅から秋田内陸縦貫鉄道の貸し切り車両に乗り込みました。車両は秋田犬と秋田杉をモチーフした内装でした。マタギの方も同乗されお弁当を食べながらお話をお聞しました。この方は移住してマタギになられたそうで200人いたマタギも今は37人しかいないとのこと。山の神から「授かった」獲物は皆で平等に分けるそうです。ここで頂いた秋田文化がたっぷり詰まったお弁当は家に着いてもお腹が空くことはありませんでした。角館から秋田市へ戻り解散となりました。

午前中のあいにくの空模様で紅葉の大自然を満喫することはかないませんでしたが、充実した一日を過ごしました。（出発時間に間に合わなかったことは猛省しております）

ゴンドラからの紅葉

真っ白な視界

山麓駅にいる秋田犬「北斗」

阿仁異人館

猛省中？の４人

秋田文化の詰まったお弁当

編集後記

今年度最後の発行となります。編集は新庄支部が担当させていただきました。

広報誌「あれこれ」では山形県建築士会女性委員会の活動をご紹介しております。ご興味ある方はお気軽にお問い合わせください。

最後にご協力頂きました皆さま本当にありがとうございました！

入会者募集！

お問合せ：山形県建築士会
☏ 0233－643－4568
http://www.yamagata-ken.org

全国大会　あきた大会　女性委員会セッションに参加して

長井支部　小笠原　華奈子

　あきた大会の会場は、9月にグランドオープンしたばかりの、ガラス張りで開放的な外観の、あきた芸術劇場ミルハスです。

　女性委員会セッションは、小ホールBにて開催されました。
　このホールは、ダンス演習も出来る大型鏡があるモダンな空間ですが、床は自然素材のリノリウムが使われ、環境配慮もされており、ミルハスはデザインだけじゃないことがここにも伺えるようでした。

　会場の状況はオンラインでも発信され、全国女性建築士連絡協議会東京大会の報告をされた連合会女性委員会筒井副会長や、パネリストの宮城県建築士会　石川さんはリモート参加されました。
　リアルとオンラインのハイブリットです。
　オンラインはスムーズに進み、前日遅くまでのリハーサルやこれまでの準備の成果を存分に発揮されていました。

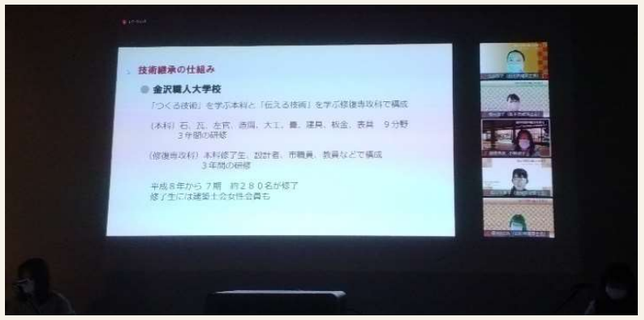
　テーマは、和の空間の魅力を探る　ふぁいなる～これから～
魅力ある和の空間ガイドブック（WEB版）が、2022年4月に最終版として約80件が追加されました。
　『最終版』ということから『ふぁいなる』とテーマにありますが、終わりではなく、『これから』ガイドブックを活用して今後の活動につながる話を、多数のスライドからご紹介頂きました。
　『和の空間』は、現在でも見る事が出来る建物が集められています。
　建物が継承され、それが今後も続き、一緒に技術も継承されていく、『これから』の話につながっていて、ガイドブックの意義について感じることが出来たように思いました。

　我らが草刈さんの発表です。
　芭蕉、清風歴史資料館や旧風間邸住宅と、小勢起屋本店。
　古き良き建築物です。
　特に資料館は、建築年：江戸時代後期の建物で、雪の影響で曲がったであろう木材を、職人技を駆使して梁として使い、代々受け継がれ、令和の現代まで残されていると話されました。
　戦後からか、新築至上主義が根付き、30年程の周期でスクラップ＆ビルド、また過剰な供給による既存住宅の1割が空き家という現象が起こってしまいました。
　骨格がしっかりし、使用材料を吟味し、変化に対応できる良質な住宅ストックを増やし、手入れをし続け、あらたな価値を得る…簡単ではありませんが、技術の継承や環境の持続に結びつくのだと思いました。

　我ら女性委員会にて、パンフレットとパネルを作成し、士会内部にとどまらず、外部の方にも魅力的な建物を知って頂けるよう、公共施設に置かせて頂く取組みをしている共有もされました。
　他県の方々にも興味を持って頂けたようです。

　宮城県からは、継続して開催されている木の建築講座のご紹介がありました。

　古民家の断熱方法等、より実務的で継続して住まう為の講座を開催されているとの事で、次回1月もオンラインで、どなたでも参加可能との事でした。
　住み続ける為の実例が学べる貴重な機会かと思いました。
　大谷石の産地として知られる栃木県から、今回ご紹介頂いたのは、日光田母沢御用邸と瀧澤家住宅でした。
　日光田母沢御用邸は当時の最高技術や素材で建てられた見ごたえある建築物であると共に、記念公園として日本の歴史公園100選にも選ばれ、庭との関係も素晴らしいとの事で、是非行ってみたいと聞き入っていました。
　瀧澤家住宅は栃木県建築士会も携わり改修工事がされ、地域に愛されるとシンボルに息を吹き返したようで、人がいなくなると痛むが、手を加えて復活できる事を象徴するお話だと思いました。
　また、組子を利用して耐力壁をつくり製品化を進める、技術を継承し発展させていく取り組みも紹介されました。



　石川県からは建物についてもさることながら、技術の継承に対する取り組みが紹介され、大変興味深いものでした。
　石川の伝統的構造技術を伝える会の存在、県認定技術者「匠」表彰制度、金沢職人大学校では「つくる技術」や「伝える技術」を学ぶ等、仕事の延長に高みを目指し技術を継承する取り組みがされているようでした。
　全国大会　あきた大会　女性委員会セッションに参加して、多くを学ばせて頂きました。
　また、『これから』の為に、従事者として、一個人として、どのように継承していくべきか考えさせられるものでした。

　草刈さんはじめご担当された方々の、準備から運営までのご苦労計り知れないと肌で感じつつ参加させて頂きました。
　有難うございました。